

授業科目 身体障害作業療法学 III

【担当教員名】 今西 里佳		対象学年	3	対象学科	作業
		開講時期	前期	必修選択	必修
		単位数	2	時間数	30
【カリキュラムポリシーとの関連性】					
知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	
◎	◎	◎	◎	◎	
【概要・一般目標：G10】 内部障害、神経難病、終末期に対する作業療法を行うために、病態を理解した上で、評価技法、治療・指導方法を習得する					
【学習目標・行動目標：SB0】 1. 内部障害、神経難病、終末期の様々な疾患や障害の病態に関心を持ち、真摯かつ積極的な態度で学ぶことができる 2. 内部障害、神経難病、終末期の各々の疾患や障害の臨床経過を述べるができる 3. 内部障害に対する作業療法の目的・評価・治療技術について説明することができる 4. 神経難病に対する作業療法の目的・評価・治療技術について説明することができる 5. 終末期に対する作業療法の目的・評価・治療技術について説明することができる 6. 内部障害、神経難病、終末期に対する作業療法の目標・治療内容について考えを述べるができる					
回数	授業計画・学習の主題			SB0 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	内部障害の病態とその臨床的経過			1～3	講義
2	内部障害に対する作業療法 呼吸器機能障害（1）			1～3,6	講義・演習
3	内部障害に対する作業療法 呼吸器機能障害（2）			1～3,6	講義・演習
4	内部障害に対する作業療法 呼吸器機能障害（3）			1～3,6	講義・演習
5	内部障害に対する作業療法 呼吸器機能障害（4）			1～3,6	講義・演習
6	内部障害に対する作業療法 循環機能障害			1～3,6	講義・演習
7	内部障害に対する作業療法 代謝障害			1～3,6	講義・演習
8	内部障害に対する作業療法 下部尿路機能障害（1）			1～3,6	講義・演習
9	内部障害に対する作業療法 下部尿路機能障害（2）			1～3,6	講義・演習
10	終末期に対する作業療法			1,2,5,6	講義・演習
11	神経難病の病態とその臨床的経過			1,2,4	講義・演習
12	神経難病に対する作業療法 神経変性疾患（1）			1,2,4,6	講義・演習
13	神経難病に対する作業療法 神経変性疾患（2）			1,2,4,6	講義・演習
14	神経難病に対する作業療法 神経・筋疾患（1）			1,2,4,6	講義・演習
15	神経難病に対する作業療法 神経・筋疾患（2）			1,2,4,6	講義・演習
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)		身体機能作業療法学 第2版	岩崎テリ子編	医学書院	2011・4,700円＋税
参考書		ADLとその周辺 第2版	伊藤利之	医学書院	2008・6,000円＋税
その他の資料		配布資料			
【評価方法】 知識・技能の確認として小テストを実施する。また出席、レポート提出日厳守や演習に意欲的に取り組む授業態度を重んじる。出席、授業態度、レポート提出、小テスト、定期試験の結果から総合的に判断する。			【履修上の留意点】		